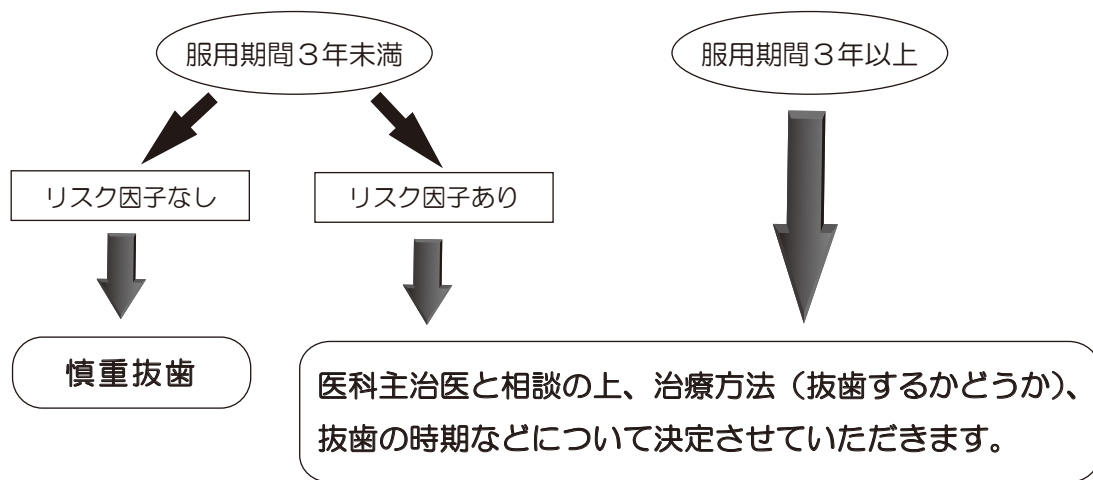


骨粗鬆症の治療のために
ビスフォスフォネート製剤（ ）を
服用している方へ

抜歯の際は、大変重要な注意事項があります。ビスフォスフォネート製剤を服用している方が抜歯を行った場合、頻度は少ないのですが、抜歯の後が治癒しないで、非常に難治性の顎骨壊死、または顎骨骨髄炎（BRONJ）を起こす場合があります。そのため、抜歯に際しては、服用期間の長さ、リスク因子の有無で、抜歯までの手順が異なります。



*但し、緊急に抜歯が必要な場合は、この限りではありませんが、頻度は大変少ないものの、難治性の顎骨壊死・骨髄炎の危険性があります。

現在、日本国内で発売されている ビスフォスフォネート製剤

ベネット錠、アクトネル錠、リカルボン錠、ボノテオ錠、ダイドロネル錠、ボナロン錠、フォサマック錠、アレドロン酸錠「タイヨー」、アレドロン酸錠「SN」、アレドロン酸錠「DK」

BRONJ (ビスフォスフォネート関連顎骨壊死)とは

ビスフォスフォネート製剤使用中の患者にみられる難治性の顎骨病変。抜歯の後、治癒せず、骨が露出するのが典型例。発生メカニズム、頻度（内服の場合はかなり低いと思われる）など不明。治療方法も未確立。

リスク因子

口腔衛生状態の不良、歯周病、歯周膿瘍、癌、高齢、腎透析、ヘモグロビン低値、糖尿病、肥満、薬物（ステロイド、シクロフォスファミド、エリスロポエチン、サリドマイド）、喫煙、飲酒

2010年 月 日

● ● 歯科医院

歯科医師